AKIBA TAMABI21

粒子と光

二〇二一年 十一月二四日・水曜日―十二月二六日・日曜日

岩崎友哉　齊藤コン　高嶋文哉　成清祐太　林暢彦

アキバタマビ21第93回展覧会［粒光 Ryūkō］

粒光

2021 11.24 wed ― 12.26 sun

アキバタマビ21 3331ArtsChiyoda2F201・202

［12:00 ― 19:00（金・土は20:00・12.26は18:00まで／火曜・11.28休場）］

「粒光」とは、本展覧会出展者の一人、成清祐太がアキバタマビをおとずれたときに偶然思いついた言葉です。その言葉が含みもつものは、瞬間的なひらめき、万物を構成する声と文字の手触り、関係性の網の目、「ながれゆくもの」などです。

この言葉は私たちに「インドラの網」を思い起こさせます。インドラ（帝釈天）の宮殿にかけられた網には無数の宝珠が輝き、ひとつひとつの宝珠に、他のすべての宝珠がうつしだされているといいます。

しかし、そうでありながら、私たちはそれぞれに異なった存在です。つながりを持ちうる可能性を帯びた個別なものたちです。

「粒光」とは、インドラの宮殿の宝珠と宝珠の間を飛び交う、個々の光の粒子なのでしょうか。

本展覧会では、この「粒光」という言葉を軸に、ジャンルの異なる五人の表現者が作品を発表します。瞬間的なコマとコマの間に、反転し滲み出る身体器官に、人間と動物の知覚に、自分が生まれる前の世界に、聴こえくる声と声の間に――個々の表現者は、それぞれ独特の、個別で有限な「つながり」の可能性を持ち寄ります。

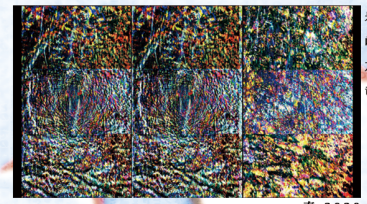
それらの「つながり」の点と軌跡の布置から、不協和音に満ちた、世界に対する異なる眺望が描き出されます。

この五人の共通点は、これまで様々な領域――必ずしもアートの領域とは限らない――をさまよってきた「半端者」である、ということかもしれません。

この割り切れない人々の、分からなさに対する孤独で知的な関心が、「粒光」の核にあるといえるでしょう。

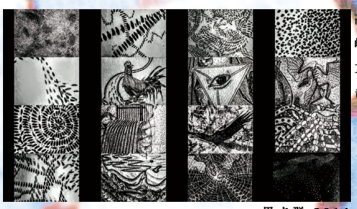
あまりにも「現在」を意識せざるをえないような現在に、今でない今、ここではないここ、私でない私（あるいは誰か）をどのように想像することができるのか？

企画代表 林暢彦

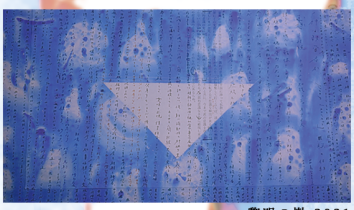


岩崎友哉 春 2020

齊藤コン Mutant Dynamics 2019



高嶋文哉 黒点群 2014



成清祐太 黎明の樹 2021

林暢彦 エコミメシス ―梯子―（https://ecomimeladd.jp）2021

岩崎 友哉 TomoyaIWASAKI

一九九二年東京都生まれ。映画作家。劇映画と並行してコマとコマの関係性に焦点をあてたg-if作品、音声と映像のどちらをも編集によって解体してゆくミュージック・ビデオ作品など、映画の原理に着目した作品を制作している。

齊藤 コン ConSAITOH

二〇一六年多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科卒業。ダンサー。生物学、武道への興味から身体の研究の道へ。動きと現象、物事の変容を身体と測る。

高嶋 文哉 FumiyaTAKASHIMA

一九九一年生誕。二〇一四年多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科卒業。在学中より現在に至るまで複数の表現形式を用いて制作を続ける。卒業後は那覇を拠点に琉球列島のフィールドを巡り知見を広める。制作の傍ら昆虫の新分布記録及び未知の生態を報告(日本甲虫学会Elytra(N.S.)/2018)。

成清 祐太 YutaNARIKIYO

一九八九年生まれ。二〇一四年多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科卒業。コトバと光を切り口に、仮構された世界の変容と解体、別の世界の断面、その開示の可能性を試みる。『夜の映画―遠野フィルム』で二〇二〇年遠野文化フォーラム招待上映。

林 暢彦 NobuhikoHAYASHI

一九九二年愛知県生まれ。二〇一五年多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科中退。音響作家。アルゴリズミックな生成音楽、サウンドインスタレーション、ダンスや映画のためのサウンドデザインなどを手がける。録音術、音と聴取、環境における声と言語の起源をテーマに制作。

＊会期中、会場の近辺でのみ聴けるラジオ放送を行います。ご来場の際は小型のFMラジオの持参をお勧めします。

［パフォーマンス+トーク］

本展覧会出展者齊藤コンによるパフォーマンスに加え、情報科学芸術大学院大学[IAMAS]教授の小林昌廣氏をゲストに迎えた出展作家とのトークを行います。
※11月28日(日)以降、記録動画をアキバタマビのwebサイトで公開します。

［ゲスト］小林昌廣 MasahiroKOBAYASHI

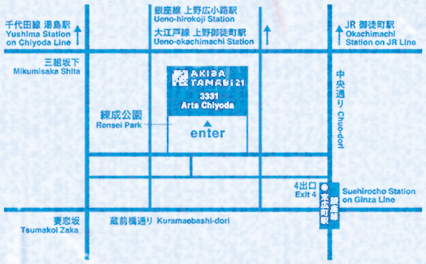
1959年東京生まれ。
医学と哲学と芸術を三つの頂点とする三角形の中心に「身体」をすえて、独特の身体論を展開。
医学史・医療人類学から見た身体、古典芸能（歌舞伎、文楽、能楽、落語）から見た身体、そして現代思想とくに表象文化論から見た身体などについて横断的に考察している。各地で歌舞伎や落語に関する市民講座や公開講座などを行っている。
情報科学芸術大学院大学[IAMAS]教授。

［ライブパフォーマンス］

● 12月26日（日）開場18:00―（要予約）

［出演］齊藤コン Con SAITOH

※予約方法は11月24日以降、アキバタマビ21のwebサイトでお知らせします。



AKIBA TAMABI 21

東京都千代田区外神田6-11-14
［3331ArtsChiyoda201・202］
東京メトロ銀座線 末広町駅4番出口 徒歩1分
東京メトロ千代田線 湯島駅6番出口 徒歩3分
都営大江戸線 上野御徒町駅A1出口 徒歩6分
☎03(5812)4558／office@akibatamabi21.com
［http://www.akibatamabi21.com］

「アキバタマビ21」は多摩美術大学が運営する、若い芸術家たちのための作品発表の場である。ここは若い芸術家たちが、互いに切磋琢磨しながら協働し共生することを体験する場であり、他者と触れ合うことで自我の殻から脱皮し、既存のシステムや権威に依存することなく自らをプロデュースし自立していくための鍛錬の場でもある――そうありたいという希望を託して若い芸術家たちにゆだねる、あり得るかもしれない「可能性」の場であり、その可能性を目撃していただく場所である。

アキバタマビ21（3331ArtsChiyoda2F201・202）【開場時間】12:00―19:00（金・土は20:00まで・12.26は18:00まで／火曜・11.28休場）